

道央家族会報 13号



2018年度道央地区知的障がい児・者家族会研修会

9月19日(木)10:00から、北広島市芸術文化ホールの活動室1・2で研修会を開催しました。

講師に、道家連参与の安田由美さんをお招きし、2016年12月～2017年12月にかけて道家連が実施したアンケート集計から、「親亡き後、何が一番心配?」、「今の施設が終の住処になるために」、「家族の安心のため、本人の幸せのために」等について講演されました。

保護者の思いをくみ取り、どのように活動したらいいのか、アンケート結果から伝わってくる切実な思いを共有し、共に考え、語り合う機会を持つことができました。

未加入家族会にも案内状を送付させていただき、参加いただいた方がいらっしゃいました。

合計6家族会、37名の参加がありました。



～楽しみの「あきまつり」中止～ 代案で各事業所楽しい食事会開催(恵庭光風家族会)

利用者の皆さんが楽しみにしていた9月15日の「あきまつり」は、地震により交流ホーム等、使用できず、残念ながら中止になりました。

施設より、入所とグループホームの利用者の昼食食材の手配(給食業者委託)ができないと家族会に相談があり、当初の「あきまつり」支援費でミニあきまつり&食事会の支援を依頼されました。

15日は、かねてより、あきまつり手配しておりました屋台ラーメン、たこ焼き、焼きそば屋さんに来ていただき、本棟中庭で、プチあきまつり食事会を開催することになり、利用者は大満足でした。

他の各事業所は、それぞれ嗜好をこらした「あきまつり&食事会」を開催予定です

そだてらす…かつ藤「とんかつ弁当」食事会、

とらいは…いちえ「釜飯」食事会

牧場事業所・就労B型…未定

西事業所…ピザハット「ピザ」食事会予定



創立50周年の節目(千歳いずみ学園保護会 佐藤眞作)

社会福祉法人千歳いずみ学園に、息子がお世話になったのが平成3年でしたので、今年で27年になりました。

私は、平成14年4月に会長職を引き受け、今日に至っていますが、当時は「父母の会」と称していましたが、平成16年に父母の範囲を超えた名称「保護者会」に改称しています。

今年、社会福祉法人千歳いずみ学園は、節目となる創立50周年を迎えましたが、保護者会が協力でき

ることは、10月のお祝いの会に多くの会員の方が参加することと、11月の祝賀会に保護者会の役員が出席することです。

なお、学園の行事が秋季に多いこともあり、毎年、保護者会実施してきた「職員と保護者の集い」の開催を今年は中止しています。

障がいをもつ子供たちが、職員の心の通った温かい支援を受けられることに感謝していますが、50周年の節目を迎えた施設のより円滑な運営と更なる発展を願うものです。

また、将来に向けた国の福祉政策が弱者を切り捨てることはないと思いますが、親亡き後も子どもたちが安心して過ごすことのできる施設を末永く維持してもらうためにも、保護者の皆さんには一層結束した協力体制が要求されると考えます。



楽しみにしていた旅行（新篠津ふれあいの苑家族会 佐藤一明）

苑行事の旅行は、8月30日日帰りグループ、円山動物園～ホテル食事でスタートしました。



泊りグループ1班

9月2日～3日、旭山動物園～層雲峡ホテル泊り
～富良野～新篠津。

同行した保護者たちも楽しんでできました。

泊りグループ2班は、9月9日～10日の予定でしたが、台風、地震で急遽中止となりました。

該当する子供達は理解しながらも首を長くして待っていましたので、職員が旅行を再計画し、登別温泉泊り～水族館と、白金温泉泊り～旭山動物園との2つのグループに分けました。



登別方面

いろいろありましたが、すべての旅行を終えました。

子供たちは、それぞれに見学したり、頭を悩ませたりしながらお土産を買う等、満喫した様子でした。今は感謝の気持ちと、楽しい思い出とで、ほっとしています。



旭川方面



北ひろしま福祉会第2回グリーンフェスティバル(実行委員長 泉和之)

今回の祭りは、台風に脅かされながら前日に台風案として準備させていただきました。

とみがおか・共栄の限られた空間でのフードコートイメージした形態での提供でしたが、利用者さんには家族の方と一緒に楽しんでいただき、ご家族からは喜びとお礼のお言葉を沢山いただきました。

過去一度も雨天案での祭り開催が行われていなかったため、雨天案のイメージができていなかったと感じ、次年度以降は、開催日の変更や延期する場合も考慮すべきだと考えます。

今年度のテーマ「つながる」の名のもとに、しっかりと来年度につながるものにしていきたいと思ひます。



第14回全施連全国大会決議

全国知的障害者施設家族会連合会は、平成30年10月23・24日二日間にわたって神戸市において、第14回全国大会を開催し、一人で暮らすことが困難で、家族の支援も確実に失っていくなか、制度としてこれ以上の福祉の後退は許されないという思いから、障害福祉制度が知的障害のある人、その家族が安心して託せる制度になることを願って全国から集い語り合いました。充実した公的支援制度の実現が願ひです。現在、福祉政策のパラダイムの転換が起きています。「地域包括ケアシステム強化法」は「地域共生社会」の実現に向け、介護保険制度、障害福祉制度に「共生型サービス」を創設し、障害福祉と介護保険との一体化、統合が図られようとしています。

私たちは障害者の権利を守り、障害のない人と同等の暮らしができることを求め、次の事項を本大会の決議と致します。

決議

1. 障害福祉制度と介護保険制度との一体化、統合は廃止して下さい。
2. 24時間切れ目のない支援で快適に安心・安全に暮らせる障害者支援施設やグループホームを居住する家と位置づける制度を新設して下さい。
3. 支援の制限に繋がる支援区分は本人に必要な支援が受けられる仕組みに変えて下さい。
4. 安定して必要な支援が受けられる職員の定員増と処遇改善を急いで下さい。
5. 知的障害者の特性を熟知し、福祉職の専門家としての施設職員を育成して下さい。
6. 生活保護費以下の障害基礎年金の引き上げ、憲法に保障された公的責任を果たして下さい。
7. 国及び地方公共団体は、知的障害者への障害福祉サービスを提供する義務を負うこととして下さい。

編集後記

今年は、台風や地震など、災害が多かった中で、職員や関係者がとても活躍してくれました。

利用者・家族が無事に過ごすことができましたことに感謝の意を表します。

また、今回の会報に投稿して下さった方々に感謝申し上げます。

ありがとうございました。